

大竹市指定重要文化財

史跡

けごろも

肇の碑

はせお
者世越

肇につゝみて

ぬくし鴨の足

この碑の句は、松尾芭蕉まつおばしやう（一六四四、一六九四）が元禄六年（一

六九三）の冬に詠んだもので、俳諧七部集の「続猿蓑」ぞくさるみのにある。

芭蕉の百五十年忌にあたる天保一四年（一八四三）近郊の俳句同好の人達によつてこの記念碑が建立された。その頃、芸備地方

の俳壇はいだんの多くは、芭蕉の門人志田野坡しだやばの流れを汲んでいたという。

元治年間（一八六四、一八六五）には、この地の俳人市川蘭史いちかわらんし・永田斗泉ながたとうせんらが、この碑にちなんで「肇社」という俳句の会を組織

した。この俳壇は、慶応から明治にかけて隆盛を極め、後に清遊倶楽部へと引き継がれた。